

多文化共生事業事例集		年度 R6
団体名	苫小牧市	助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業 事業総額 2,000千円
事業名	苫小牧市多文化共生指針策定事業	
概要	苫小牧都市再生コンセプトプランを具現化し、本市の課題解決と成長戦略の一つとして外国人材活躍社会の実現と日常的に外国人と共生する社会の実現に向け「苫小牧市多文化共生指針」を策定した。（令和5年度の指針策定事前整備事業を踏まえ、指針を策定するもの。）	
事業の背景	事業の詳細	
<p>当市では外国人住民数が5年間で約2倍に増加しており、国籍の多様化や人材不足の観点から働く外国人の増加がみられる。このような状況の中、従来の国際交流ではなく、地域の生活者として「日常的に」外国人と共生する社会を目指す必要がある。</p>	<p><b>①苫小牧市多文化共生指針策定会議</b>            苫小牧市多文化共生指針を策定するにあたり、策定内容の協議をする機関として設置。            ・令和5年度に設置した準備会議の委員を中心に必要な委員を追加            ・委員12名の構成で、年3回会議を実施            ・構成員：都市再生アドバイザー、オブザーバー、委員、外国籍の行政職員2名、事務局（苫小牧市未来創造戦略室）            ・構成員区分：居住、地域福祉、教育関連、医療分野、スポーツ、留学生受入校、日本語教育、外国人雇用、町内会、安全・受入、外国人住民</p> <p><b>【会議内容】</b>            第1回：5月20日            ○委員委嘱・紹介、有識者・事務局紹介、座長の選任            ○指針の構成について ○多文化共生にかかる外部環境調査            第2回：10月22日            ○指針の策定状況について ○指針のアクションプランについて            第3回：1月14日            ○パブリックコメントの実施結果 ○指針本編+概要編最終案            ※苫小牧市多文化共生指針については市HPにて公開済 <a href="https://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/kyoiku/kokusaioryu/ttabunka/sisin/policy.html">下記URLのQRコード↑</a>  <a href="https://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/kyoiku/kokusaioryu/ttabunka/sisin/policy.html">https://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/kyoiku/kokusaioryu/ttabunka/sisin/policy.html</a></p>	
事業の目的	<p>上記の背景から、誰もが国籍や文化的背景に関わらず、地域の未来を創る一員として、共生できるまちづくりの方向性を定める苫小牧市多文化共生指針を策定する。</p>	
<p><b>②都市再生アドバイザー（有識者）の任命</b>            指針策定をはじめとした本市の多文化共生事業に対し直接的な支援を担う有識者への委嘱。            有識者：田村太郎氏（ダイバーシティ研究所代表理事）            活動内容：苫小牧市多文化共生指針策定会議への出席、例月の意見交換、事業全体に対する助言、国の施策・予算・先進地事例の情報提供など            活動結果：策定会議への出席3回、意見交換・事業打ち合わせなど10回（オンライン含む）</p>		
<p><b>③苫小牧市多文化共生指針策定支援業務</b>            指針策定支援業務として、令和5年度に実施した事前整備事業の内容、その他本分野に関わる資料のまとめ・分析、指針策定会議等の結果をとりまとめ、各施策の立案・展開方策を整理し、指針策定を支援する。            実施方法：業務委託契約（公募型プロポーザル方式により事業者選定）            業務内容：取組・資料の整理と既存調査の分析、指針の素案策定、パブリックコメントの実施支援</p> <p>&lt;スケジュール&gt;            4月 契約締結、作業開始（外部環境調査等）            5月～ 毎週火曜に定例ミーティング（オンライン、現地）                    第1回指針策定会議参加（資料作成・議事メモ作成）            10月 第2回指針策定会議参加（資料作成・議事メモ作成）            1月 第3回指針策定会議参加（資料作成・議事メモ作成）            2月 指針本編・概要版完成</p>		



事業実施における工夫点・事業の成果等

【苫小牧市多文化共生指針策定会議】

第1回委員10名出席  
第2回委員9名出席  
第3回委員10名出席

【指針策定に係るパブリックコメント】

実施期間：令和6年11月14日～12月13日  
意見人数：1名  
意見件数：4件

・ダイバーシティ研究所の田村太郎氏を有識者として都市再生アドバイザーに任命し、指針策定や各施策に対し助言・指導をいただいた。  
・北海道国際交流・協力総合センターの小田島道朗氏には、令和5年度に引き続き策定会議の座長を務めていただき、各委員の意見集約に尽力いただいた。また、会議参加だけでなく、例月の打ち合わせ（オンライン）にも参加いただき、今後の本市の取り組みに対しての助言や道内市町村の情報共有をしていただいた。

今後の課題・将来に向けての展望等

当初予定していた取組みは概ね達成でき、他団体や有識者と連携しながら苫小牧市多文化共生指針を策定することができた。

指針の策定にあたっては委託業者の支援の元、外部環境調査や本市の特徴整理、庁内各課へのヒアリングや意見照会、パブリックコメントによる市民からの意見聴取、苫小牧市多文化共生指針策定委員からの意見聴取を経て、多種多様な視点からの意見を反映した指針を策定することができた。

今後は指針内に記載されているアクションプランの取組みを推進していくことになるが、自治体だけでなく市民や企業、関連団体など、市民一人ひとりが実施主体である旨、意識醸成を図りながら各取組みを進めていくことが必要であると考えます。

今後も引き続き多文化共生社会の実現に向け、社会情勢や在留外国人の傾向に留意しながら取組みを進めたい。



苫小牧市多文化共生指針  
概要編 ネパール語版 苫小牧市の多文化共生の概況

事業担当者のふりかえり

本助成金の活用により、本市として初めての多文化共生指針を策定することができました。アドバイザーの田村太郎氏をはじめ、各分野の有識者、関係機関、そして外国人市民の皆さまから幅広くご意見をいただいたことで、より具体的な取り組みを見据えた施策を盛り込むことができたと感じています。

今後はこの指針を広く周知し、実際のアクションプランとして着実に展開していくことが課題となりますが、多文化共生社会の実現に向けた重要な第一歩を踏み出したことは、大きな成果であったと考えています。

今後も、地域の皆さまや関係機関と連携しながら、持続可能な多文化共生のまちづくりを進めていきたいと思っております。